「個別支援計画」による支援手法の確立に関する研究Ⅱ
－「個別支援計画」による支援プロセスの現状と課題－

○　京都華頂大学　　武田康晴（02464）

キーワード：個別支援計画、本人中心、支援プロセス

１．研 究 目 的

2003 年度に支援費制度が導入され利用契約の前提として義務化された個別支援計画の策定と実施について、国は「指定障害者福祉サービス事業等の人員、設置及び運営に関する基準」（省令第 171 号）において、個別支援計画の策定とそれに基づく個別支援プロセスに関するサービス提供事業者の責務を明記し、その中核的役割としてサービス管理責任者を位置付けている。しかし、サービス管理責任者にはわずか３にちかんの研修を課しているだけで、現任者研修は義務化されておらず、個別支援計画による支援を提供する環境は未整備であると言わざるを得ない。我々が実施している研修会（以下「研修会」）※1 に受講希望者が殺到している現状※2 は、適切な支援を提供したいがその方法を模索する現場の悲痛な声が反映されていると考えられる。

本研究では、以下に示す研究方法を通して、個別支援計画を巡る現状と課題、特に個別支援計画の作成及び実施プロセスにおける現状と課題を明らかにする。そして、個別支援計画というツールを活用しいかに「本人が望む生活」を実現するための支援を提供すべきか、すなわち障害者福祉の分野において本人中心のソーシャルワークをいかに実践していくべきかを検討していきたい。

※1　2009 年度研修会は、独立行政法人福祉医療機構平成 21 年度「長寿・子育て・障害者基金」助成事業による。2010 年度研修会は、日本障害者リハビリテーション協会が単独実施。
※2　計 5 回実施し、定員 70 名に対しそれぞれ 430 名、355 名、203 名、222 名、228 名の受講希望者。

２．研究の視点および方法

これまでの研究（前回報告分）では、本人ニーズや目標設定において本人の主体性が曖昧、目標設定から計画策定及び実施における一貫性の確保が困難、個別新計画の策定及び実施に関する職員のスキル獲得とスキルアップの仕組みが不可欠などの課題が明らかになった。今回は、特に個別支援計画策定及び実施プロセスに注目して課題を明らかにする。

１）個別支援計画による支援プロセスにおける課題に関するアンケート調査

①調査対象　平成 21 年度「研修会」受講者計 202 名（それぞれ 106 名、96 名）

②調査方法　郵送によるアンケート配布・回収

③調査内容　個別支援計画の作成に関する職務上の位置づけ
　　個別支援計画の作成及び実施プロセスにおける課題

個別支援計画を巡る事業所における環境の課題

２）平成 22 年度「研修会」受講者への事前アンケートの分析

①調査対象　平成 22 年度「研修会」受講者計 286 名（それぞれ 96 名、91 名、99 名）

②調査方法　受講決定者が「研修会」までに郵送・fax・メールにて提出（自由記述）

③調査内容　個別支援計画の作成及び実施を巡る所属事業所の現状

個別支援計画の作成及び実施プロセスにおける課題

３）個別支援計画を巡る状況の変化に関するインタビュー調査

①調査対象　先のグループインタビュー※3 参加者のうち協力の得られた数名

②調査方法　インタビューガイドに基づく個別インタビュー調査

③調査内容　個別支援計画の作成及び実施プロセスの変化と現状

個別支援計画の作成及び実施プロセスにお残された課題と展望

※3　平成 18 年度厚生労働科学障害保健福祉総合研究事業「地域移行を推進していく施設内個人別プログラムの構築と入所施設利用者および施設職員のホスピタリズム改善に関する研究」による。

３．倫理的配慮

アンケート調査については、自由記述欄の分析も含め個人を特定できる情報は一切記載していない。インタビュー調査については、原稿・資料の内容を事前確認後、所属機関・団体の倫理規定及び守秘義務について確認と了承を得た上で固有名詞の表現を避けて公表する。また、文章による回答についても、記入者を特定できる情報は記載しない。

４．研 究 結 果

今回は、2007 年以降の状況について、主として個別支援計画による支援プロセスに焦点を当てて現状を分析することで、支援プロセスに潜む課題を明らかにしてきた。その中で最も大きな課題は、支援プロセスの中で障害者本人の主体性や中心性がどのように維持されているのか（つまり維持されにくいのか）という課題であると考えられる。アンケート調査の数字を一部引用すれば、いずれも支援プロセスにおける課題で、アセスメントの段階では「本人ニーズの把握」が 77.8%、計画作成の段階では「目標設定」が 76.6%、支援する段階では「個別支援計画と実際の支援のズレ」が 65.3%（割合は、各段階に「課題がある」と回答した者の内）が最も高くなっている。これらは、いずれも本人の状況（または思い）と支援（または支援するための計画）の間に生じている課題であると考えられる。

そもそも「個別支援計画」による支援は、本人の望む outcome（小川 2009）を実現するために計画、実践されなければならない。つまり、アセスメントから終結に至る全てのプロセスにおいて、常に本人が中心にいなければならない。しかし、支援プロセスの各段階あるいは接点において、支援するための計画、社会資源の限界に本人を合わせる支援となっている、それが個別支援計画による支援における最も大きな課題ではないだろうか。